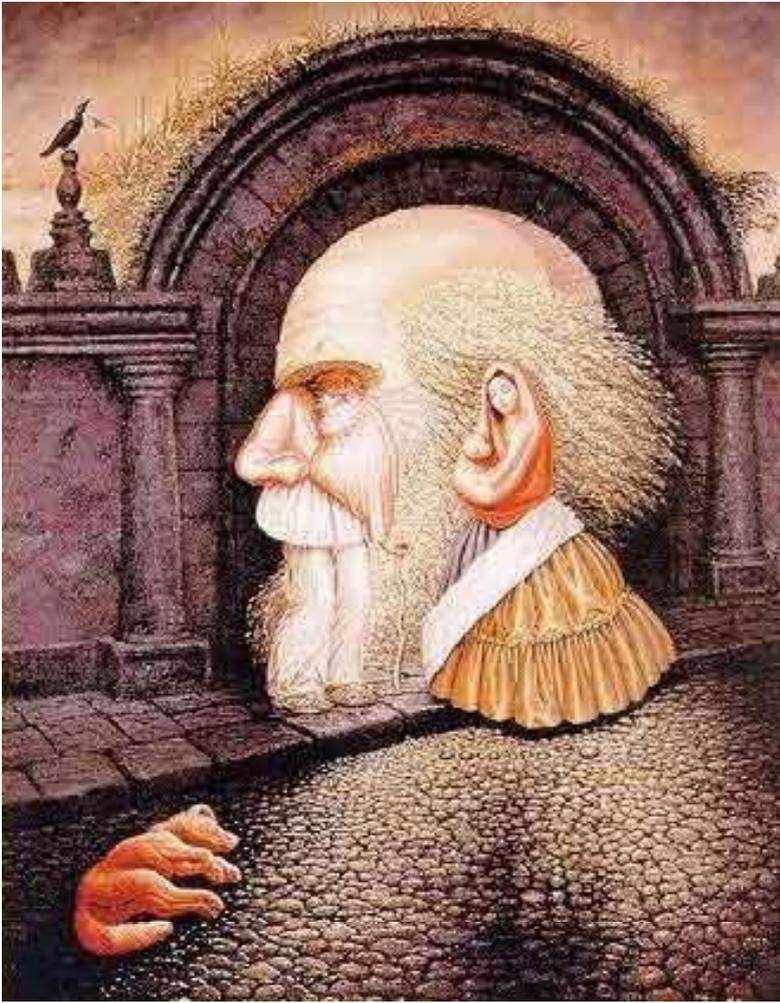


考えて見よう

境川中学校 一年三組 堀江真司

ぼくたちには、見方を変えることで、他のものに見えることがある。

左の図をよく見てみよう。遠くから見ると、一人のおじいさんの顔が見えるだろう。しかし、近くからこの図を見てみよう。男の人と女の人が見えるであろう。また、遠くから見ると手に見えるように、一つの図でも、距離を変えると、まったく違う図に見えてしまうのである。



このことは日常生活でもよくあることだ。山を遠くから見ると、おおまかに一つの物としてとらえられるが、近くから見ると、木が一本一本あるのが分かるであろう。

次に、左の図を見てみよう。右を向いた女の人に見えるという人もいれば、下を向いたおばあさんに見える人もいるだろう。しかし、この絵にはもう一つの物が隠れているのである。帽子をよく見てみよう。帽子は猫に見えるのである。このように、中心に見るものを変えることで、違う物に見えることがある。

日常生活でも、気づくことはないだろうか。例えば、今、空を見ているとしよう。そこに鳥が飛んできた。このとき、鳥を見ることで、空は単なる背景になってしまうのだ。これも中心に見るものが変わったといえるであろう。

このようにぼくたちは、知らず知らずのうちに見方を変えているのである。そのことを踏まえながら見てみるのもおもしろいかもしれない。

